

日時 令和2年1月6日（月曜日）
14時から16時まで
場所 都庁第一本庁舎25階116会議室

令和元年度緑のボランティア活動に関する指導者育成委員会
(第2回)

会 議 次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 指導者育成講座 今後の方針
 - ・資料1 指導者育成講座 今後の方針について
- (2) 令和2年度の基礎講習
 - ・資料2 基礎講習の課題と改善策
 - ・資料3 令和2年度 基礎講習スケジュール
- (3) 広報活動
 - ・資料4 令和2年度 基礎講習の広報活動について

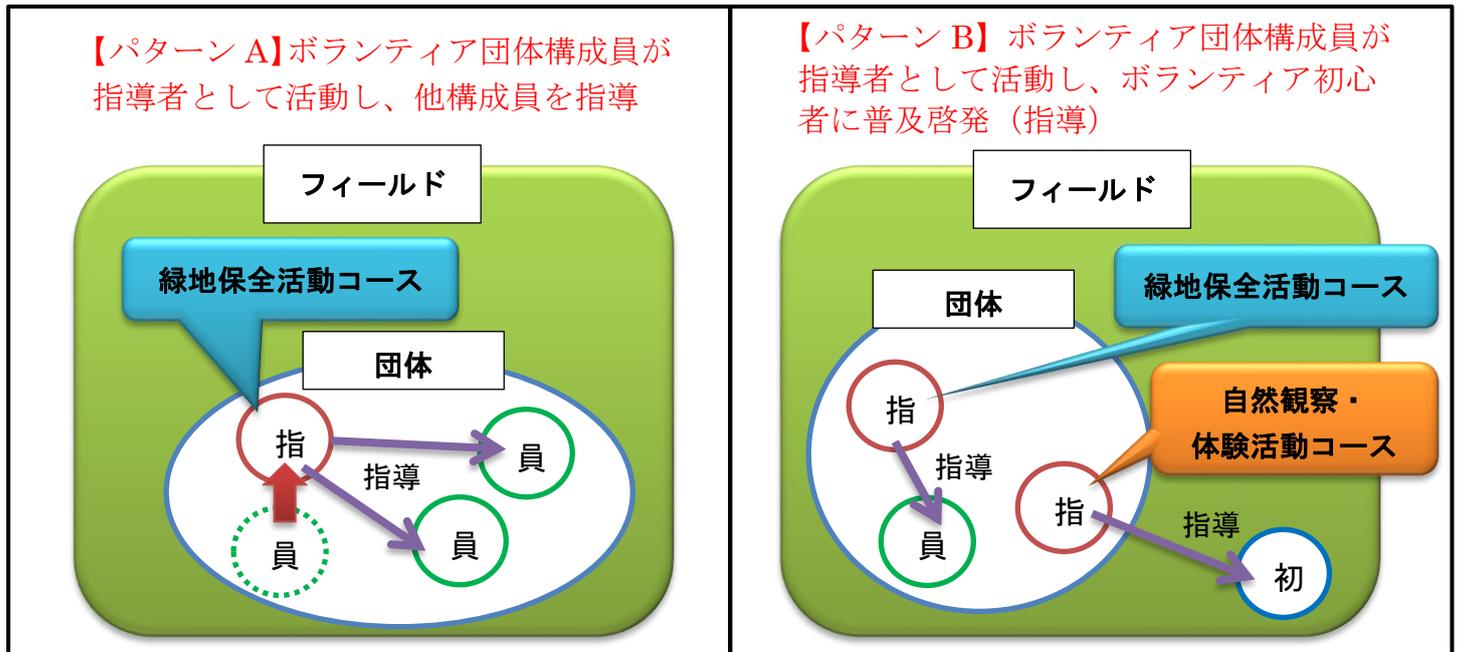
3 閉 会

指導者育成講座 今後の方針について

東京における自然の保護と回復に関する条例

第九条 知事は、都民による自発的な自然観察、緑化推進、緑地保全等の自然の保護と回復に関する活動を促進するため、**普及啓発、技術指導等を行う指導者**を育成するよう努めるものとする。

➡ **現場指導者**の育成を想定



背景

➤ 講座が開始した平成 13 年度当時、都民による緑のボランティア活動者数が増加傾向

状況の変化 ……平成 27 年度 人材育成策の方向転換期

➤ ボランティア活動者数の減少

東京都 ボランティア活動の種類別行動者率

調査年	10 歳以上人口（千人）	行動者率（%）	
		総数	自然や環境を守るための活動
平成 13 年	11,026	22.7	5.7
平成 28 年	12,346	21.6	2.4

【参考】平成 13 年社会生活基本調査（総務省統計局） 平成 28 年社会生活基本調査（総務省統計局）



里山へ GO! の開始

里山へ GO! 参加者数の推移

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
240 人	450 人	831 人	899 人

指導者育成講座 今後の方針について

今後の方針

現場指導力に加え、**団体運営力**を身に付けるための講座内容に発展させる。

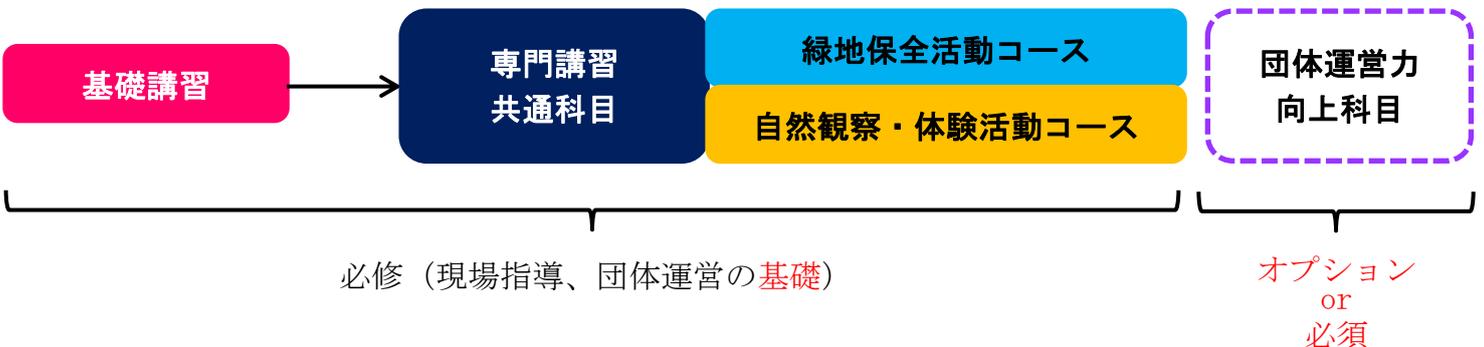
- 受講者は、現場指導力の向上を期待する人が多い。
- 東京都は、ボランティア活動者数の減少とボランティア団体規模の縮小を防ぐために、団体運営力を身に付けた人材を育成したい。

現場指導力向上科目を主軸にした構成は変えず、団体運営力向上科目を新規開設

現行



案1



案2

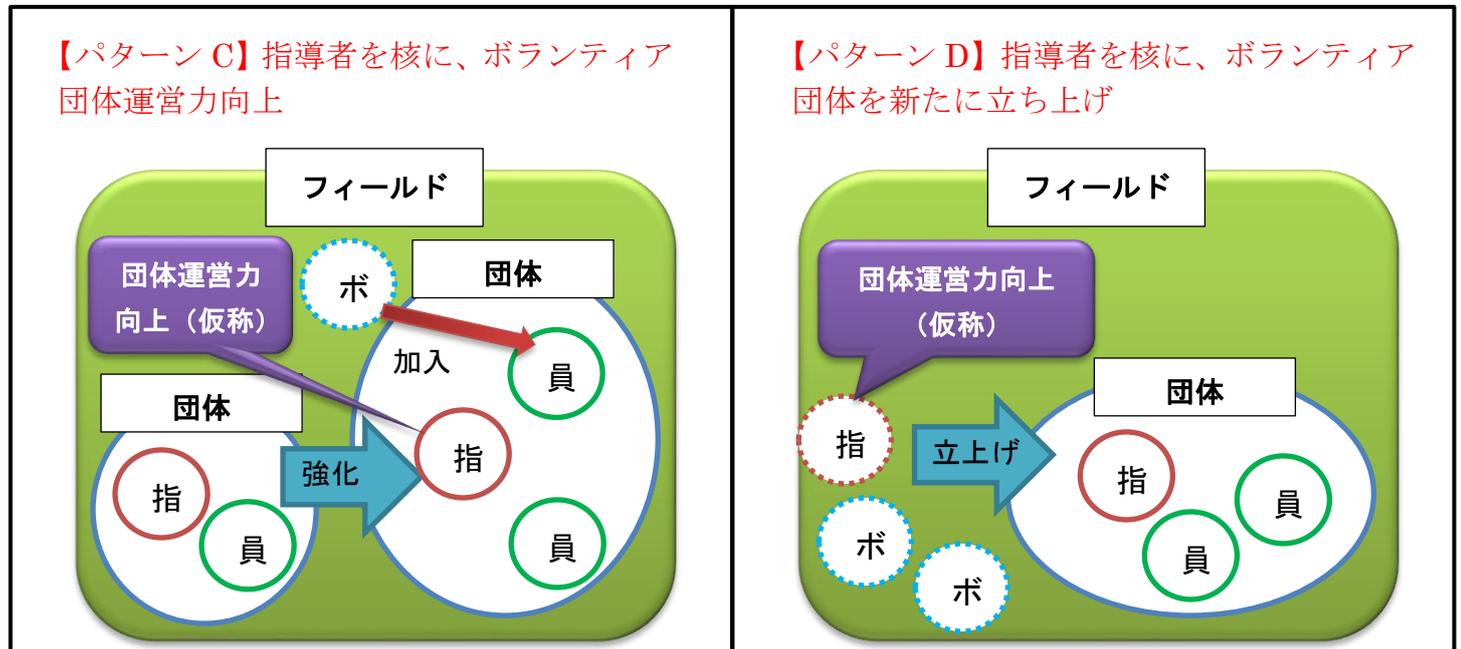


案3



指導者育成講座 今後の方針について

団体運営力向上科目の効果

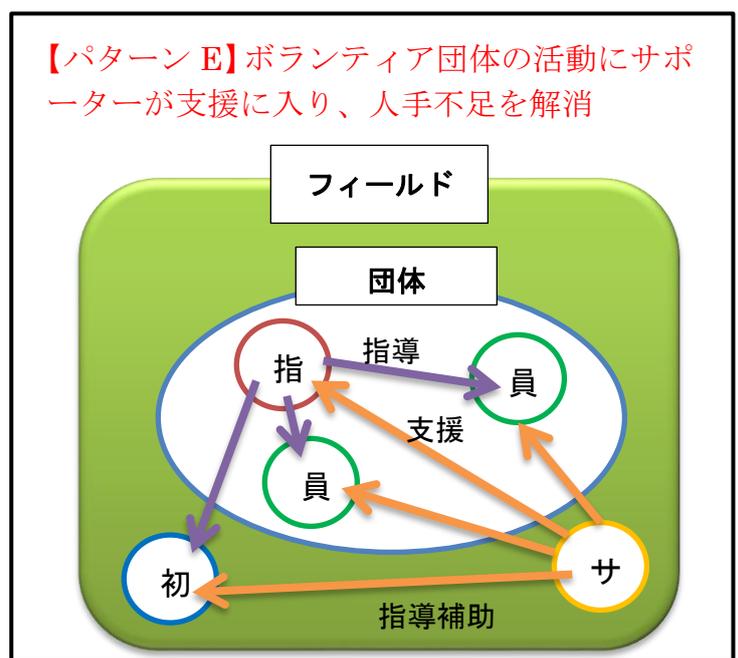


【参考1】保全地域サポーター制度 (仮称) の導入

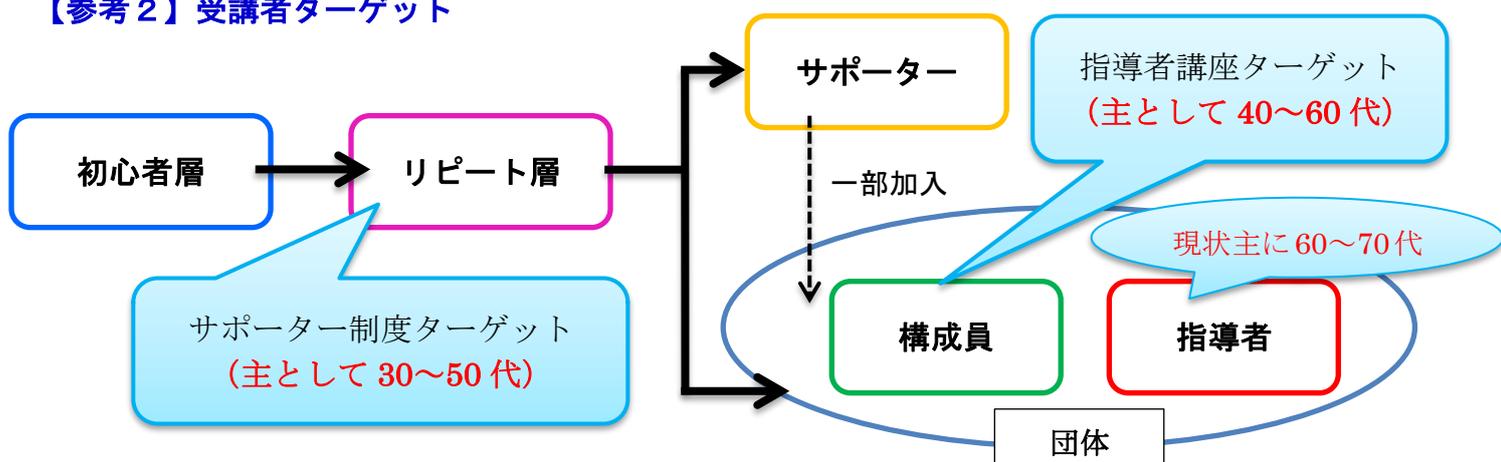
- ▶ ボランティア団体に加入しないまま、保全地域活動団体の定例活動や「保全地域体験プログラム」運営補助に参加できる「保全地域サポーター」の認定開始を検討

導入効果

- ▶ ボランティア団体の定例活動やイベント運営において、人手不足を解消
- ▶ ボランティアの参加形態が多様化しており、「さまざまな場所で活動を行いたい」というボランティアの需要に対応



【参考2】受講者ターゲット



基礎講習の課題と改善策

タイトル	29年度内容（※）	課題	改善案（R2年度）
ボランティア活動の理念	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義 2 時間、ワーク 2 時間 ➤ ワークでは、「指導者の役割」などのグループ討議を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 仲間作りや資金確保など、実践に移すには別途講義が必要 ➤ 発表時間が短い 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 専門講習にて、より具体的な講義を用意 ➤ 講義とワークの時間配分を再検討
雑木林の設計と森づくり作業	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義 1.5 時間、実習 3 時間、振り返り 30 分 ➤ 森林管理の方法を学んだ後、鎌・ノコギリを使用した下草刈りを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 実習時間が短い ➤ 手作業での維持管理方法が習得できる一方、団体によっては作業の機械化が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義にて、機械での作業についても概要説明 ➤ 指導員数を再検討し、実習を効率よく進める工夫を実施
指導法の基本	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義 2 時間、実習 3 時間 ➤ プログラム記入シートを用いながら、指導のプログラム化を実践 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「インタープリテーション」という概念に馴染みのない受講生が多数 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 用語の意味を十分に説明するとともに、タイトルを変更（講師と調整）
自然の理解・自然観察の基本手法	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義 1 時間、実習 4 時間 ➤ 草地及び川の自然観察を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 水辺での活動初心者が大多数 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 水辺での安全管理など、草地等との違いを説明に盛り込む
自然公園管理の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義 1 時間、実習 4 時間 ➤ 高尾山を歩きつつ、レンジャーの活動を学習 	—	—
ネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義 45 分、ワーク 2 時間 15 分 ➤ ワークでは、グループごとにチラシを作成 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ チラシづくりが主な作業内容となっており、内容とタイトルにずれが生じている 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ネットワークづくりの事例紹介及び受講者同士のネットワーク形成を行う講座に再編成
自然環境行政	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義 2 時間 ➤ 環境行政に係る講義を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 内容が多岐に渡っており、それぞれの施策の関連性が把握しづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 資料を改善
応急手当・救命方法を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 実習 3 時間 ➤ 救急法の基礎知識について、実践を通じて学習 	—	—
安全な活動を考える	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講義 4 時間 ➤ 安全管理について理解し、危険予知の方法を学習 	—	—

赤・・・現場指導力

青・・・団体運営力

（※）詳細は平成 29 年度テキスト参照

令和2年度 基礎講習スケジュール

- 屋内実習を夏季・冬季、屋外実習を秋季に実施
- 受講者同士のネットワーク形成を目的とした科目を初回に実施
- オリンピック・パラリンピック期間は避けて編成

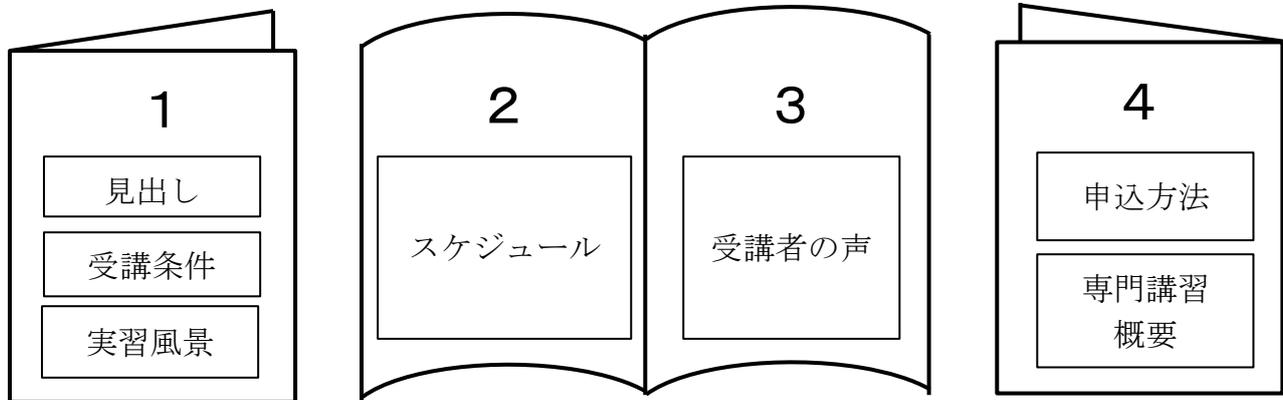
タイトル	講義/実習	実施時期・時間（案）	（参考）29年度実績
自然環境行政	講義	7月上旬 1時間 「ネットワークづくり」と 同一日に実施	8月26日 講義 2時間
ネットワークづくり	講義	7月上旬 4時間 「自然環境行政」と 同一日に実施	8月5日 講義 45分、 ワーク 2時間 15分
雑木林の設計と森づくり作業	実習	9月下旬～11月 5時間	6月25日 講義 1.5時間、 実習 3時間、 振り返り 30分
インタープリテーションの 展開方法（仮称）	実習	9月下旬～11月 5時間	旧タイトル：指導法の基本 7月1日 講義 2時間、実習 3時間
自然の理解・自然観察の基本手法	実習	9月下旬～11月 5時間	7月15日 講義 1時間、実習 4時間
自然公園管理の基礎	実習	9月下旬～11月 5時間	7月22日 講義 1時間、実習 4時間
ボランティア活動の理念	講義	12月 4時間 「応急手当・救命方法を身に 付ける」と同一日に実施	6月18日 講義 2時間、ワーク 2時間
応急手当・救命 方法を身に付ける	実習	12月 3時間 「ボランティア活動の理念」 と同一日に実施	8月26日 実習 3時間
安全な活動を 考える	講義	1月 4時間 「修了試験」と同一日に実施	9月2日 講義 4時間
修了試験	—	1月 30分 「安全な活動を考える」と 同一日に実施	9月2日 30分

令和2年度 基礎講習の広報活動について

1 パンフレットのデザイン性向上

- ▶ パンフレット作成を外注し、手に取ってもらえるような魅力あるデザインに改良

<デザイン例> A3二つ折り



1	見出し	「指導者育成講座」は副題に留め、見出しを工夫
	受講条件	募集締切・募集人数・受講料など、受講に当たり重要な情報は表紙に掲載
	実習風景	前回の講習会の様子が分かる写真
2	スケジュール	日時、場所、各科目の概要など
3	受講者の声	講座受講による効果について、過去の受講者からの意見を掲載
4	申込方法	申込先、申込後の流れなど
	専門講習概要	専門講習は次年度開催の旨明記

(受講者の声 掲載例)

- Q 受講の理由を教えてください。
- A 受講生の先輩から進められて受講を決めました。受講当初は技術的な能力向上を学ぶことを想定していました。
- Q 講座を受講したことによる効果を教えてください。
- A 講座を通じて受講生や専門家とのつながりができ、新たにボランティア団体を立ち上げるに至りました。現在は、「楽しい山づくりにしよう」「得意なものをつくろう」をモットーに、構成員がそれぞれの強みを発揮しながら活動を行っています。

- ▶ 12名から掲載許可あり
- ▶ パンフレットは2, 3名の声を抜粋して掲載。その他全文は、環境局ホームページに掲載

令和2年度 基礎講習の広報活動について

2 募集期間の拡大

- 専門講習を令和3年度実施としたことにより、基礎講習の開始時期を遅らせ、募集期間を延ばすことが可能
- 2か月間募集期間を設け、申込状況をみつつ、広報を実施

年度	締切日
平成29年度	4月28日
	
令和2年度	5月末

3 広報手段（案）

電子媒体	紙媒体	口頭による情報提供
環境局ホームページ、SNS、メルマガ	広報東京都	区市町村課長会
里山へGO! ホームページ、SNS、メルマガ	区市町村広報誌	保全団体交流会
保全団体へのメール	公共施設へのチラシ配架	
イマ de×タマ	保全団体へのチラシ配布【新】	
環境らしんばん【新】	他局管轄ボランティアへのチラシ配布【新】	

4 チラシ配布先（案）

公共施設への配架	ボランティア団体への配布
都庁案内スペース	保全地域活動団体
野山北・六道山公園 里山民家	とうきょう林業サポート隊
福生市役所（川の志民館）	東京都東部7公園ボランティア
日野市立カワセミハウス	狭山丘陵の都立公園ボランティア
緑と水の市民カレッジ	多摩川水源森林隊
都立神代植物公園	
山のふるさと村	
檜原都民の森	
神代植物園生物多様性センター	
小峰ビジターセンター	
区市町村ボランティアセンター	
環境局窓口（本庁、多摩環境事務所）	